

知事： もう一つすごいなと思いましたが、外にも直接売っていかうとやっておられる。「ふるさと便」できればこれを詳しく教えていただきたいです。

会長： この「ふるさと便」を提案してくれたのは、農業改良センターの職員です。横島でもやってみたらどうかと話があり、「いも煮会」のときに申込みを受け付けました。最初は30件くらいだったと思います。餅、干し柿、しめ縄など全部この地域で取れたもの、作ったものをいろいろ10種類か11種類ぐらい入れたと思います。小豆やこんにゃくなども入れました。するとあまり人気がなかったです。けれどそのときにアンケートが4、5枚来ており内容を見たら、涙が出るわ、胸が熱くなるわで、これは止められないとなりました。再度作る視点を変え、木の箱を作り、品物を12、13品入れて送りました。そしたら今度はものすごく反響がよかったです。蓋を開けると木の香りがし、そして上から順番にしめ縄をとったら、次は何が出てくるだろうと思ったら、お餅が出てき、いろいろなものが出てきて、本当に玉手箱みたいだという話でした。言葉では言えないですが、胸を打たれるような回答がたくさん寄せられました。現在は申込みが大体60、70件来ています。これからイベントが済んだら、合間合間を見ながら夜なべに木の箱を作って、準備に入ります。田舎のふるさとの味と言うか、これを一回試食したらもう止められないということで、「いも煮会」にせよ「お茶」にせよリピーターが増えて、今家族ぐるみの付き合いができました。そして、これを支えてくれているのが地元の応援団、地元の協力部隊であり、本当に感謝をしています。

知事： ありがとうございます。「ふるさと便」で送ったら、その後もずっとリピーターになりますね。「いも煮会」で「感動しました」「素晴らしい」と思った人が、「ふるさと便」でずっとつながっていきます。また来ようということになります。もっといえば、地元のスーパーに横島で食べたものがあったら、つい手が伸びます。これは素晴らしいです。